



i n t e r v i e w

(株)狭山金型製作所 代表取締役

ホンダエンジニアリング(株) 車体金型生産部
車体金型製造技術開発ブロック 生産技術主任

大場 治氏 + 中村 健氏

Osamu Oba

Tsuyoshi Nakamura

中村 今回は、埼玉県入間市で精密プラスチック金型の設計製作などを手がける狭山金型製作所代表取締役の大場治さんにお話をいただきます。昨年、大場さんは日本金型

工業会東部支部の若手経営者の会「天青会」のメンバーを中心に「KANAGATA イレブン」を結成して、「EUROMOLD」に共同出展したり、地域の中小企業経営者と連携して「チーム入間」として共同受注を促進したりと、独自の活動を精力的にこなしています。また今年是天青会の新会長に就任されました。それぞれの活動内容や目指すビジョン、さらにはユニークな人材育成法についても伺いたいと思います。

まず大場さんは、25歳という若さで二代目経営者となりましたが、その時のご苦勞をお聞かせください。

中小企業が生き残る道は 業界全体が “攻めの姿勢”で 新たな挑戦をすることです

大場 大学を卒業後、ほかの金型メーカーに就職してまだ3年目のことでした。当社の創業者である父が突然倒れてしまったため、十分な修業も覚悟もできないまま跡を継いだのです。パ

ブル全盛期の1987年のことです。経営者としても技術者としても素人同然でしたから、社長に就任して3カ月で1,000万円の赤字を出してしまいました。その時、融資先の銀行から「こんなに好景気な時期に赤字を出しているのは御社ぐらいです。このままでは融資をストップしなくてはなりません」と言われました。そこで、考えたのが長期経営計画書の作成でした。1行目に「絶対に会社を潰しません」、2行目に「手形は切りません」、3行目に「毎年、設備投資をします」と書き、それを持って支店長に融資してくれるように